



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

夏休み、居場所やっています！

5月の通常総会後のお茶会で、「夏休み、冬休みは居場所が開いてないの？」、「居場所で学校の宿題をやってもいいのでは」などの質問や意見が出ました。

委託契約のため市教委に「見積書」を提出しています。そこには今年度の実施日数は「220日」と書いてあり、これは学校の開校日より多い。じつは「なんにお」は学校の長期休業中も火曜日と金曜日は開いているのです。月ごとの1日あたりの来所人数を調べてみました。昨年度の平均は1.7人、月によって少しかたよりがあり1～3人で、夏休みの7、8月もこの変動の範囲内です。高校生以上の来所者も同じくらいの人数。月による大きな変化はなし。つまり、長期休業中でも来所する利用者数はあまり変わらないという結論でした。

夏休み中開所とすれば、月、水、木曜日、週あたり3日増えることになります。その分の手当はどうでしょうか。スタッフは確保できるのか。7月の理事会で検討しました。その結果、お盆の期間(8月13日から16日)は休みとして、それ以外の週は通常の居場所と同様に開所ということになりました。

今年は7月にもならないうちに、暑い夏が始まってしまいました。熱中症が心配な日が続いています。そんな中でも、子どもたちは元気で、それぞれの活動をしています。ボードゲーム、アイロンビーズ、お楽しみ食事会「つくって食べよう」のメニュー、「教材」になりそうな雑貨類など、子どもたちとスタッフが「何を買おうか」と相談している様子もときどき見られます。学校からのプリントを持ってきて、自習している子もいます。プリントにあった「酸性・アルカリ性」の実験、クエン酸と重曹(炭酸水素ナトリウム)があれば、あまり危険がなく、試験紙の色の変化を見ながら理解でき、炭酸水を作る実験もできます。「酸素の発生」もやってみようということになり、過



5月25日、ナスとミニトマトの苗を植えました。7月の写真は3ページ

酸化水素水を購入しました。触媒として使う2酸化マンガンはマンガン電池を分解すれば取り出せます。電池の分解に興味を持った子もいますが、ケガが心配なので今回は壊した電池を見せるだけにしました。(アルカリ電池の分解はもっと危険です。絶対やらないでください！)

さて、約10倍に薄めた(3～4%になる)過酸化水素水液を2酸化マンガンにゆっくり注ぐと酸素が発生します。では、この気体が「酸素」だということをどうやって確かめるのか…、このミニ実験、興味は尽きません。

居場所利用者とスタッフによる電子工作でアンプとスピーカーができたので、「音って何？」で使えそう。原理がわかれば、スピーカーの自作も面白そうです。もしかしたら学校の「夏休み課題」をクリアするヒントが居場所で見つかるかもしれませんね。ボランティアフェスタの出し物も考え中。

ホームページの「カレンダー」欄には7、8月の予定が入っています。見学、相談など、夏休みも開いている「なんにお」に、ぜひお立ち寄りください。(T)

子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所(日光市平ヶ崎)

日時：毎月第2月曜日(午前10時～12時)

次回の予定はお問い合わせください。

参加費：300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょ。 「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。(Tel:090-3227-7079)

目次

居場所のひとこま

- 夏休み、居場所やっています！ 1
- 第14回 通常総会報告 2
- 活動報告 3
- ジャガイモの放射能 3
- こんな本はいかが？ 42 4

ジャガイモの収穫時期がやってきました。今年は日照時間が長いのと、気温が高いからでしょうか、いつもよりたくさんのジャガイモが収穫できました。たくさんできたので一度では終わらず、5、6人で2日に分けて収穫しました。暑い中、みんな汗だくで頑張りました。次回の「つくって食べよう」はジャガイモ料理かなあ。(写真：7月13日の収穫のようす)(N)



第14回 通常総会 報告

5月12日(土)午後1時より、市民活動支援センターで第14回通常総会を開きました。

はじめに、正会員数48名中、出席正会員40名(うち表決委任者29名)により定足数を満たし、会が成立することを確認しました。その後、議長(丸木香さん)の議事進行により、事業報告・決算報告、事業計画・予算案、役員選任案が承認され、議事は滞りなく終了しました。

議事終了後お茶会を開き、会員の交流の場となりました。承認いただいた本年度事業計画の概要を以下にお知らせします。

■ 事業計画

(1) 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営 予算:2,406,000円

子どもの居場所 月～金曜日は12:30～16:30に開きます。「居場所」は日光市からの委託事業です。委託に転換し、今年で6年目になります。子ども一人ひとりの意見を尊重するというままでのスタイルを守りながら、学び、個別学習援助の充実をはかることが今年度の課題です。子どもの考えを大事にしながらい籍校との連携も進めていきます。

毎月、みんなでメニューを考える楽しい食事会、「つくって食べよう」は好評イベント。近くの畑でのジャガイモ栽培も参加者が増えています。

今年度の日光市からの委託金は213万円です。総会で提案された学校長期休業中の開所については予算の関係もあり、その場では決定できませんでしたが、予算のやり繰りで今年はやってみようということになりました(前ページをご覧ください)。予算の不足分は本会より支出しています。

(2) 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発 予算:240,000円

学びサポートひろば 毎週金曜日は19:00～21:00、市民活動支援センターを会場とし、その子に応じた学習サポートをめざして、毎週金曜日に開いています。学習内容については、電子工作に興味のある子に向けたデジタル回路、オーディオアンプ作り、プログラム作成など対応アイテムを増やしています。

また、ワカモノフェスタ、ボランティアフェスタへの参加など、地域行事の支援活動を行っていきます。

(3) インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援および情報提供 予算:80,000円

ホームページによる学びの支援と活動紹介を行っています。昨年後半にホームページの改訂を行いました。まだ慣れない部分があり、対応が滞りがちですが、途切れない情報発信をめざしてがんばっていききたいと思います。

(4) 教育や福祉についての相談、情報提供および障がいの理解および啓発に関する企画運営事業 予算:45,000円

居場所での随時相談を行っています。昨年度の延べ相談数は113件で、その前年の31件から大きく増加しています。保護者の方が気軽に相談していただけるよう心がけて

います。

会報は年4回、1、4、7、10月に発行しています。居場所スタッフや理事みんなの協力で編集し、250部を印刷して、会員、市内の小中学校、関連機関に配布しています。

(5) 学校外で育つ青少年や障がいのある人の自立に関する相談および就労を支援する活動 予算:10,000円

月1回のベリー会等への参加により、関連団体との連携を取っています。

(6) 自然環境の中での学び、自然環境保全の啓発活動 自然観察、畑作り、川遊び等。環境研究班による放射能・放射線測定・啓発活動 予算:97,000円

水棲昆虫を観察する「川むしたんけん隊」を「今市の水を守る市民の会」と協力して実施しています。子どもたちが自然に親しむ機会として継続していきたいと思えます。

福島原発事故で飛散し土壌や樹木に沈着している放射能測定を進めています。空間線量計 Safecastによる空間線量測定も随時行っています。今年も、「測って守る」放射能・放射線ワークショップ(第5回)を「アースディ日光」に合わせて実施予定です。

(7) 障がいの理解および啓発に関する企画運営

子育て・親育ち勉強会や茶話会の実施。 予算:80,000円

「茶話会」は毎月第2月曜日、午前10時からお昼までの日程で、平ヶ崎の「居場所」で開いています。気軽に子育ての悩みを話し合う時間となっています。

毎年3月に実施し、好評な「勉強会」、今年度も企画予定です。

(8) 第二種社会福祉事業の相談支援事業の経営

特定指定相談支援事業(さくらそう) 予算:2,870,000円

昨年度は延べ200件の計画作成・モニタリングを実施しました。今年度も6歳から80代の方まで、幅広く担当させていただいています。

相談支援事業(栗原理事の市役所出向) 予算:5,900,000円

日光市委託により、市役所1階社会福祉課「日光市障がい者相談支援センター」へ栗原理事が出向しています。これからの支援の輪を大切に、利用者には不安なくサービスにつなげられるよう努めたいと思えます。

■ 定款第53条の変更

2016年6月のNPO法改正により追加された「貸借対照表の公告及びその方法(第28条の2関係)」についての定款変更が承認されました。変更後の第53条は以下のとおりです。

この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人のホームページに掲載して行う。

ホームページへの記載は準備中です。定款や総会資料などの掲載アドレスは次回の通信でお知らせいたします。

以上が今年度事業の概要です。これからも本会へのご援助、ご協力、そしてご助言をよろしくお願い致します。(手塚)

☆ 活動日誌

- 5月 9日 (水) 第83回 理事会
- 5月12日 (土) 第14回 通常総会
- 5月14日 (月) 茶話会 (第83回)
- 5月21日 (月) 事業報告および定款53条変更届提出 (地域振興課)
- 5月25日 (金) つくって食べよう (フルーツポンチ)
- 5月27日 (日) ベリー会：月例会
- 6月 3日 (日) 100人焼きそばパーティー (鬼怒川公園野外ステージ)
- 6月 3日 (日) ワカモノフェスタ実行委員会
- 6月11日 (月) 茶話会 (第84回)
- 6月22日 (金) つくって食べよう (フルーツだいふく)
- 6月24日 (日) ベリー会：勉強会
- 6月24日 (日) ワカモノフェスタ実行委員会
- 7月 4日 (水) 第84回 理事会
- 7月11日 (水) じゃがいも収穫 (居場所)
- 7月22日 (日) ベリー会：月例会 (葎屋で茶話会)
- 7月22日 (日) ワカモノフェスタ実行委員会
- 7月23日 (月) 居場所・夏休み開所スタート

さくらそう関連の勉強会など

- 日光市相談支援専門員連絡会 (2018年度)
 - 4月25日 (水) 2018年度年間計画・6/15県西圏域連絡会打ち合わせ
 - 5月23日 (水) 6/15県西圏域連絡会打ち合わせ
- 県西圏域相談支援事業者等連絡会 (2018年度)
 - 4月20日 (金) 平成30年度年間計画の検討
 - 6月15日 (金) 制度改定の勉強会
- 日光市障害者自立支援協議会 (2018年度)
 - 5月10日 (木) 事例検討会議
 - 5月21日 (月) 第1回相談支援実務者会議
 - 5月14日 (木) 事例検討会議



7月23日、ナスモミニトマトも収穫時期です



6月8日 ジャガイモの花

ジャガイモの放射能 - 環境研究班 -

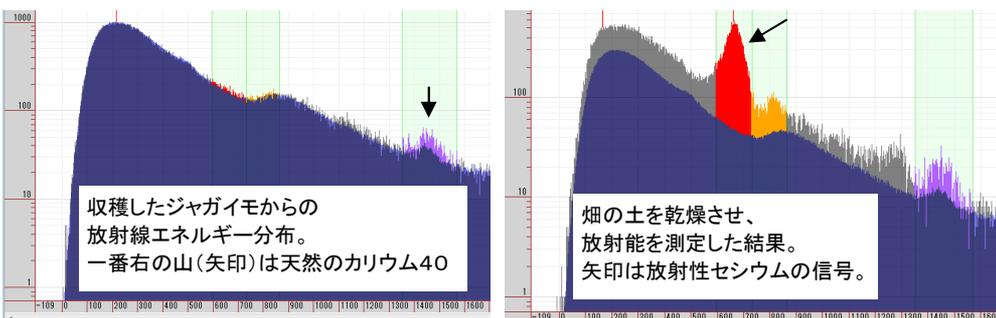
土壤の放射能測定に用いている装置は2014年秋に導入した「ChappyDigital211(略称CD211)」です。土壤測定はほぼ2~6時間ほどで終わります。装置の校正などを通じて調べていくうちに、測定時間を20時間程度に延長すれば、食品にも使用できることがわかり、少例ですが食品も測定するようになりました。

今回は、居場所で収穫したジャガイモなどの測定についてまとめてみました。試料はいずれも約300グラム、20時間測定を、大沢(2015年6月)、平ヶ崎(2015年7月)、藤原(2016年7月)、平ヶ崎(2018年7月)など、いくつかの違ったサンプルで行っています。結果はすべて「不検出」でした。けれど「不検出=0」ではありません。検出器の性能や測定時間によって、「これ以下の濃度測定はムリです」という値があり、これを「検出限界」と言います。現状の測定器では、長時間測定をしても、キログラムあたり約3ベクレルが検出限界ということがわかっています。つまりジャガイモの放射能濃度は「3ベクレル/kgより高い濃度でないことがほぼ確実」という結果になります。なんともややこしい言い方になってしまうのは、放射性物質の

崩壊が確率でしか予測できないという事実がその理由です。

左図はジャガイモを測定したときの結果です。横軸は放射線エネルギーの大きさ(単位:キロ電子ボルト)、縦軸はカウント数です。黒(紺色)の盛りあがり、測定試料を遮蔽するための鉛が放出する放射線によるものです。放射性セシウムの信号は微小です。これに対して、右図は畑の土を7月に採取して乾燥させ、測定器にかけたものです。バックグラウンドの黒い盛りあがりに重なって見える「山」(矢印)は、放射性セシウムが検出された証拠です。放射能濃度はキログラムあたり、約350ベクレルとなりました。表土(深さ5cm)を採取して測定すると、この2~3倍程度の値になるのが、日光周辺の放射能汚染です。畑は深く耕され土壤を攪拌しているため、濃度が下がります。

畑土にはこれだけの放射能があるのになぜ土の中で大きくなるジャガイモには放射能が入らないのでしょうか。セシウムは反応性が強く、土壤粒子に吸着され、植物が吸収できない状態になっているのではという研究があります。放射能の動きを考えるとなるほどと思います。半減期30年の放射性セシウム137は、これから当分の間、表土にへばりついたまま、ゆっくり減少していきます。放射性セシウムがジャガイモに入りにくいというのはよいニュースですが、いっぽうで、春の山菜、コシアブラの芽などには高濃度の(乾燥土壤の濃度に近いレベルの)放射性セシウムが検出されたりします。いままで経験のない「放射能」という厄介なものを相手にしていることを忘れずに、今年度も、測定とデータ整理を続けていきたいと思えます。(三上、手塚)



特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378

電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



こんな本はいかが？ その42:

スウェーデンの小学校社会科の教科書を読む

—日本の大学生は何を感じたのか—

ヨーラン・スバネリッド著 鈴木賢志+鈴木ゼミ編訳 2016年 新評論

今回は、新聞やラジオで紹介されて、大反響があった本を紹介します。

鈴木賢志氏は明治大学国際日本学部教授です。この本は、教科書の重要な部分の翻訳と、それに対する日本の大学生たちの感想が記され、各章で訳者の「総括」が書かれるという内容です。

日本の教科書では、社会科は地理や歴史の内容が多いのですが、スウェーデンでは、「地理」「歴史」は独立していて、この社会科には、「公民」や「政治経済」あるいは「道徳」で扱うような内容が含まれています。以下が章立てです。第1章 社会、第2章 メディア、第3章 個人と集団、第4章 経済、第5章 政治、第6章 法律と権利

とにかく驚かされるのは、小学生の子どもに対しても1人の人間として、様々なことを考えさせるという視点です。日本だったら「教えるにはまだ早い」と思ってしまう内容も、たくさん盛り込まれています。そして考えさせます。大学生たちの感想にもありますが、「小学生のうちから広い視野で考える訓練をさせている」と、私自身も感じました。

鈴木氏は、大学のゼミ生を毎年スウェーデンに連れて行き、現地の高校生や大学生と交流をするそうですが、考え方の違いに驚かされると書いています。たとえば、日本の学生が「スウェーデンでは、なぜ若者は選挙に行くの？」と質問した時、「えっ、政策や法律が変わったら、将来にわたってその影響を一番長く受けるのは若者じゃないか。むしろ、何で日本の若者は選挙に行かないの？」と逆に質問されたことがあり、これはとても印象的なシーンだったと書いています。

この本は、国民の基本的な姿勢とも関連があり、「民主主義って何？」ということを考えざるを得ない気がしました。どうぞ、一度手にとってページをめくってみてください。(白井)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員：48
賛助会員：19
団体会員：4
入会金なし
年会費(一口)
正会員 3,000円
賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしくお願ひします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。みなさまの積極的な参加をお願いいたします。

なんとなくのへや

「星を見る会」のような観察会の案内役を頼まれることがある。天体にそれほど詳しいわけではないし、月や火星に行きたいと思ったこともない。星座の名前や惑星の運行について覚えている範囲で北極星を指し示したり、夏の大三角形を見つけたり、銀河をたどったり、なんとか役目を果たすことはできる■天体についての知識は子どものころ、野尻抱影(のじりほうえい)さんの著書から得たものが多い。ネットで名前を検索すると、「英文学者、随筆家、天文民俗学者、『冥王星』の和訳命名者」とある。惑星や恒星、そして宇宙の話をていねいに解説した本だった。科学的な正確さにとられず、むしろ文学的な語り口が魅力的で、何度も読み返した■影響はずっと残っている。夜の観察会で「こやちって星を見ている間にも、私たちは地球に引っぱられ、地球は太陽に引きずられながら、あそこに光っている琴座の一等星、ベガあたりの方向に、ものすごい速さ…秒速19キロメートルで走っている」といった話をしてから、あ、これは抱影さんのだなどと思ったりする■抱影さんの本が一冊だけ本棚にある。恒星社版「星三百六十五夜」。今回、ちょっと気になって「あとがき」を開いたら、「敗戦後の虚脱感から救いを星空に求めて日夜書きつづけた随筆集」という言葉を見つけた。確かめようがないけれど、昔読んだ「宇宙の本」と同じ頃に書かれたのだろうか。小学生の私が時代背景に気付くはずもない。けれど、戦後日本の雰囲気抱影さんの著書に影を落とし、私の宇宙観にも幾分の影響を与えているのかもしれないと思う。本を通じた不思議なつながりを感じた。(T)